

2022年12月期 第2四半期 決算説明資料

ライオン株式会社
2022年8月8日

- 2022年度 第2四半期連結業績
- 2022年度 連結業績予想
- 「Vision2030 1st STAGE(2022-2024)」進捗について

■ 2022年度 第2四半期連結業績

■ 2022年度 連結業績予想

■ 「Vision2030 1st STAGE(2022-2024)」進捗について

第2四半期の公表は完全達成、対前年では増収増益(事業利益は減益)

売上高(増収)

- ・一般用消費財は、ハンドソープ、ハミガキ、ハブラシ、解熱鎮痛薬等が増収
- ・海外は、東南アジアではマレーシア、北東アジアでは韓国が好調に推移し、増収
- ・産業用品は、化学品分野の需要増が牽引し増収

事業利益(減益)

- ・原材料価格の上昇、減価償却費の増加等に対してトータルコストダウンや値上げ対応等を推進するも減益(対公表計画では増益)

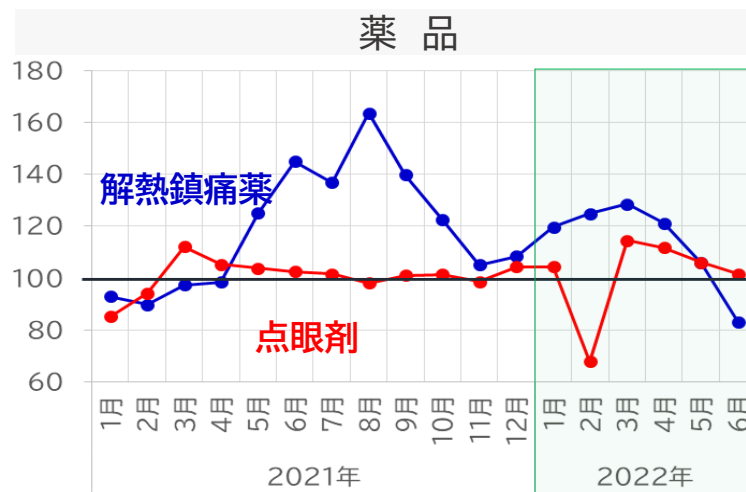
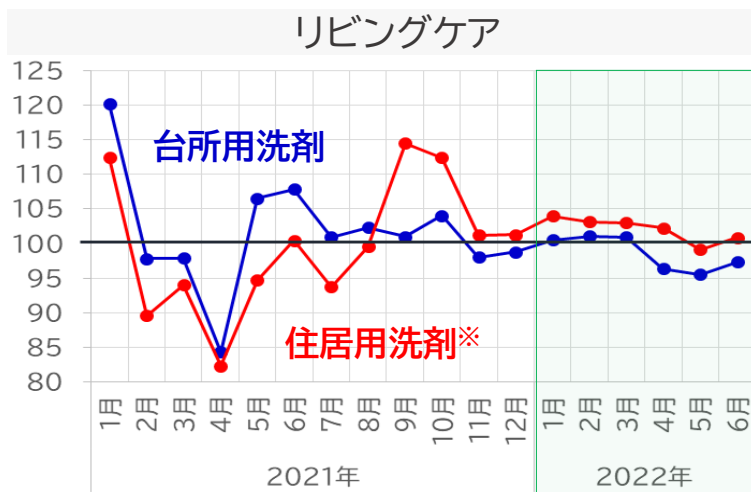
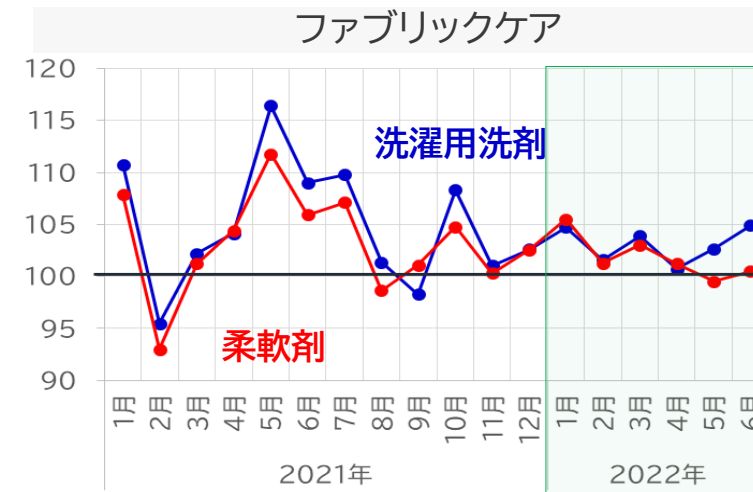
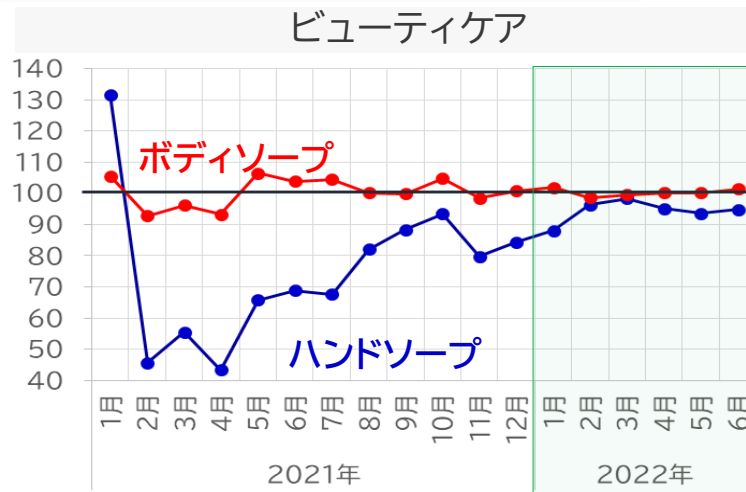
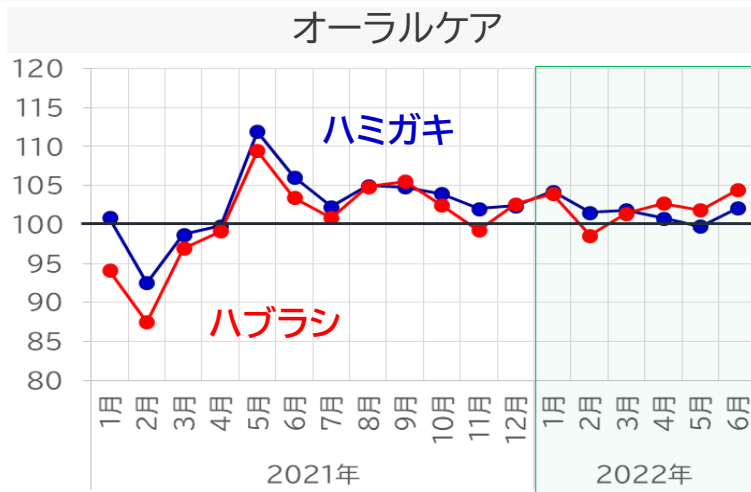
営業利益・親会社の所有者に帰属する四半期利益(増益)

- ・本年1月に連結子会社が所有していた土地の譲渡益を計上したこと等から増益

1-6月はコロナによる需要増の反動の影響も一巡し、市場全体は概ね堅調に推移

国内一般用消費財市場(店頭販売金額) 前年同月比(%)

出典:(株)インテージ、SRI+



1-6月主要項目比較(%)

項目	対21年	対20年	対19年
ハミガキ	102	103	110
ハブラシ	102	100	99
ハンドソープ	94	57	132
洗濯用洗剤	103	109	113
柔軟剤	102	106	111
台所用洗剤	98	100	121
住居用洗剤	102	97	118
解熱鎮痛薬	112	120	123

※住居用洗剤は、「住宅用洗剤」「浴室用洗剤」「トイレ用洗剤」を合算した数値を示す

ハブラシ、洗濯用洗剤は回復基調、ハンドソープは安定的に推移

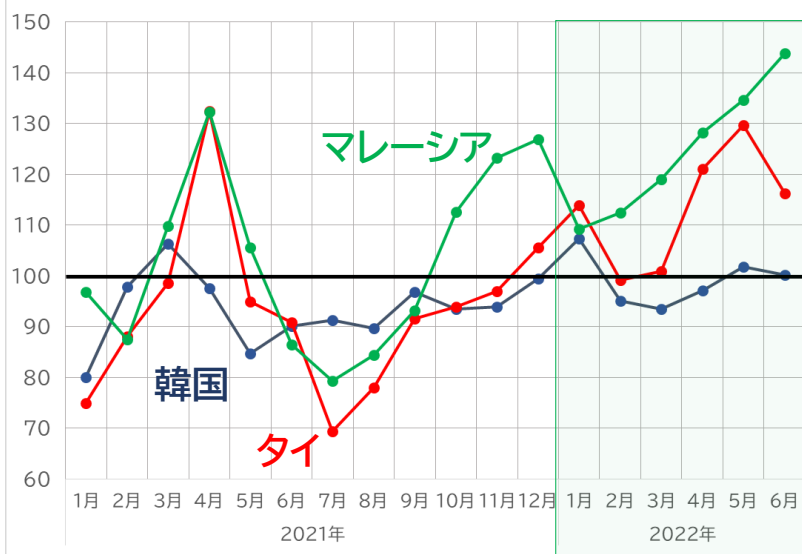
国別カテゴリー別 販売金額比較(%) (22年1-6月)

出典: Nielsen

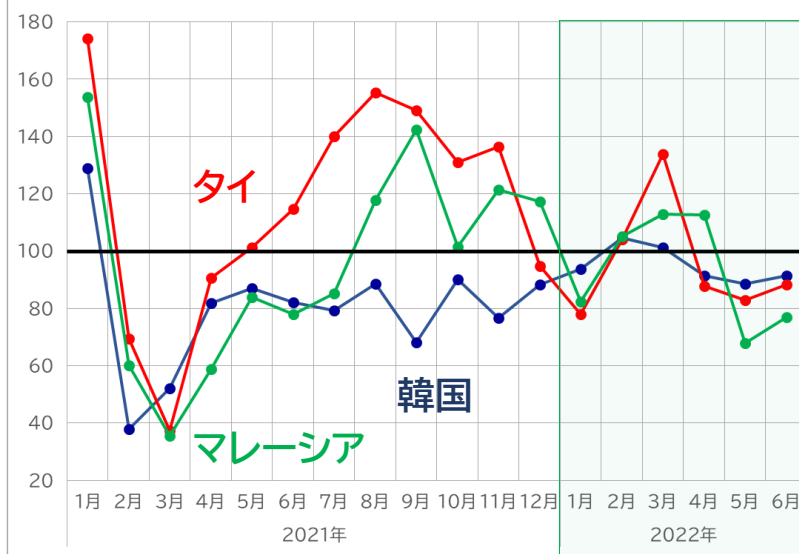
カテゴリー	タイ			マレーシア			韓国		
	対21年	対20年	対19年	対21年	対20年	対19年	対21年	対20年	対19年
ハブラシ	113	107	91	124	126	116	99	92	88
ハンドソープ	93	79	162	91	60	247	96	63	141
洗濯用洗剤	97	90	84	110	109	96	99	90	90

海外市場の動向 前年同月比(%)

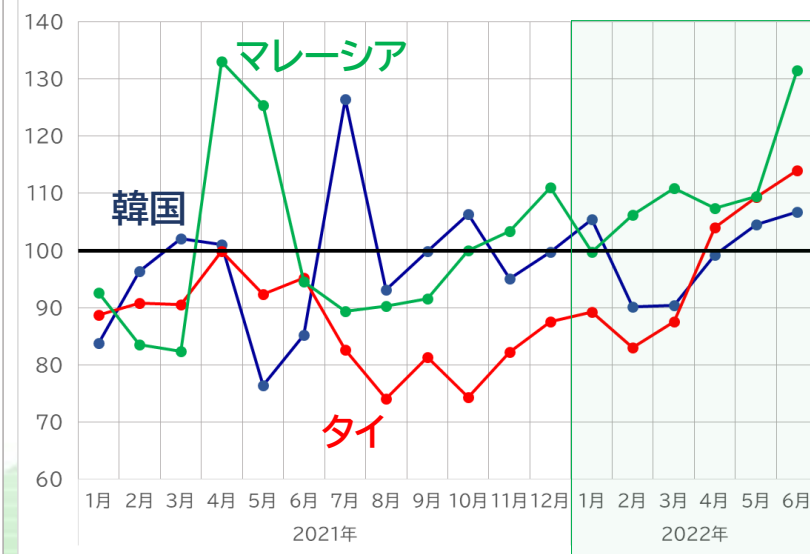
ハブラシ



ハンドソープ



洗濯用洗剤



※マレーシアについてはハンドソープを含む石鹸市場全体を示す

売上高は前年を上回るも事業利益は原材料高騰、減価償却費増加の影響により減益

(億円)	2022年 1-6月	2021年 1-6月	増減		対年初公表 増減 対公表比(%)
			額	率(%)	
売上高	1,851.9	1,732.2	119.7	6.9 4.6*	61.9 3.5
※1 事業利益 事業利益率(%)	90.9 4.9	140.3 8.1	△49.3	△35.2	14.9 19.7
営業利益 営業利益率(%)	142.6 7.7	141.8 8.2	0.8	0.6	19.6 16.0
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	110.5	108.1	2.3	2.2	20.5 22.8
基本的1株当たり 四半期利益(円)	38.75	37.20	1.55	4.2	7.79 25.2
※2 EBITDA(億円)	168.3	203.1	△34.7	△17.1	-
※3 EBITDAマージン(%)	9.1	11.7	-	△2.6P	-

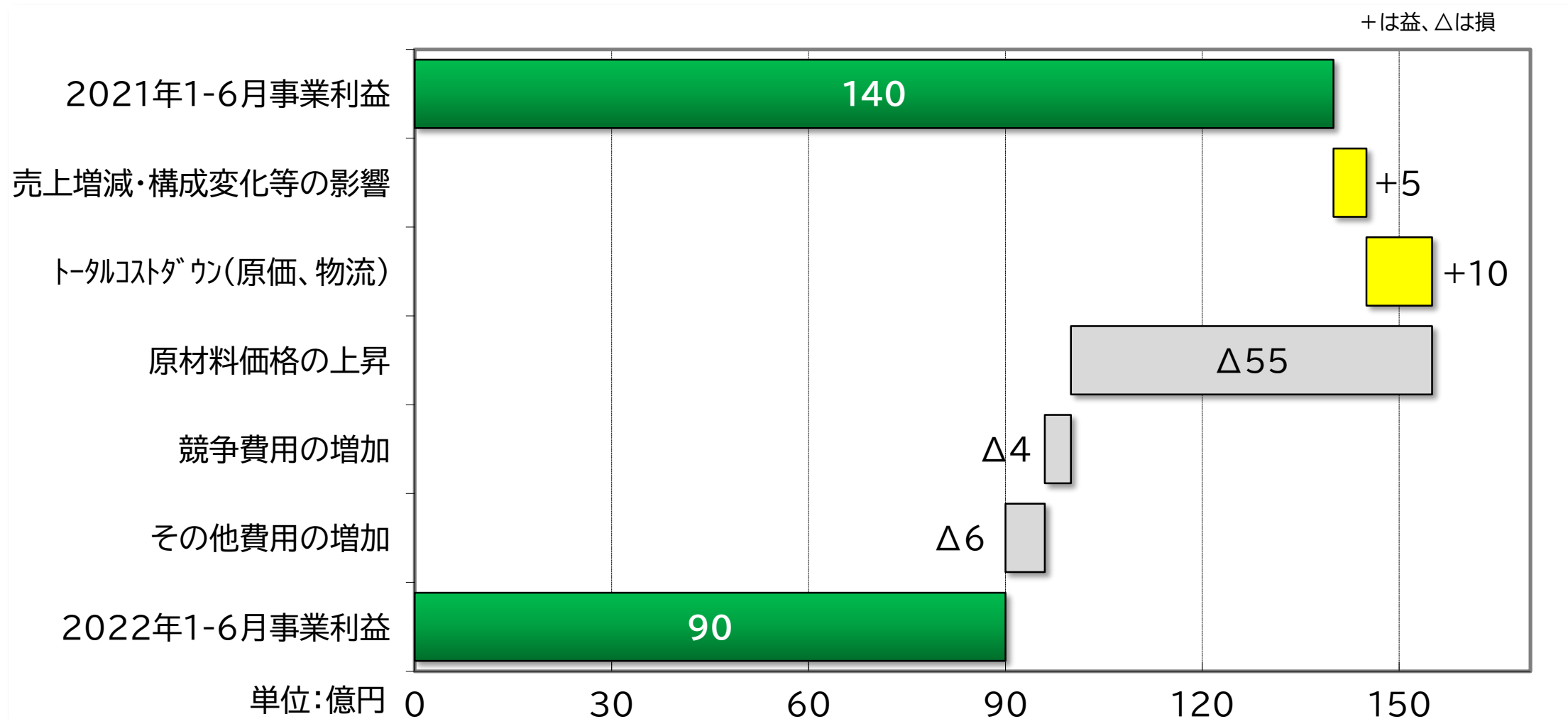
※1 事業利益は、売上総利益から販売費及び一般管理費を控除したもので、恒常的な事業の業績を測る当社の利益指標です。

※2 EBITDA:事業利益に減価償却費(使用权資産の減価償却費を除く)を合算したものの(22年から変更)。キャッシュベースの収益力を示す指標です。

※3 EBITDAマージン:連結売上高に対するEBITDAの割合です。

* 為替変動の影響を除く実質増減率。

トータルコストダウンや競争費用の効率化等を推進するも、
原材料価格の上昇に加え、減価償却費の増加等により全体では減益



原材料価格上昇の影響については、各対応策の実施により吸収

【上期実績】

原材料価格上昇の影響

△5億円

当社における対応と効果

値上げ、特売価格・頻度の見直し等
販売促進費のコントロール

+19億円

追加コストダウン、
経費の効率化等

+14億円

セグメント構成変化等

△13億円

上期対公表差異

+15億円

その他分野を除き増収も、原材料価格上昇の影響を受け減益

(億円)	売上高				セグメント利益 (事業利益)																																																											
	2022年 1-6月	2021年 1-6月	増減		2022年 1-6月 (率(%))	2021年 1-6月 (率(%))	増減																																																									
			額	率(%)			額	率(%)																																																								
一般用消費財	1,255.3	1,210.6	44.7	3.7	43.0 (3.4)	81.0 (6.7)	△38.0	△46.9																																																								
	1,085.1	1,071.6	13.4	1.3					産業用品	272.0	240.1	31.8	13.3	15.5 (5.7)	15.5 (6.5)	△0.0	△0.5	182.8	166.3	16.5	9.9	海外	611.8	535.9	75.9	14.2	18.8 (3.1)	34.8 (6.5)	△16.0	△46.0	556.6	483.0	73.6	15.3	その他	64.5	163.6	△99.1	△60.6	4.8 (7.5)	10.1 (6.2)	△5.2	△52.1	29.2	11.7	17.4	149.3	調整額	△351.9	△418.1	66.2	-	8.7 -	△1.2 -	10.0	-	△1.8	△0.4	△1.4	-	連結計	1,851.9	1,732.2	119.7
産業用品	272.0	240.1	31.8	13.3	15.5 (5.7)	15.5 (6.5)	△0.0	△0.5																																																								
	182.8	166.3	16.5	9.9					海外	611.8	535.9	75.9	14.2	18.8 (3.1)	34.8 (6.5)	△16.0	△46.0	556.6	483.0	73.6	15.3	その他	64.5	163.6	△99.1	△60.6	4.8 (7.5)	10.1 (6.2)	△5.2	△52.1	29.2	11.7	17.4	149.3	調整額	△351.9	△418.1	66.2	-	8.7 -	△1.2 -	10.0	-	△1.8	△0.4	△1.4	-	連結計	1,851.9	1,732.2	119.7	6.9	90.9 (4.9)	140.3 (8.1)	△49.3	△35.2								
海外	611.8	535.9	75.9	14.2	18.8 (3.1)	34.8 (6.5)	△16.0	△46.0																																																								
	556.6	483.0	73.6	15.3					その他	64.5	163.6	△99.1	△60.6	4.8 (7.5)	10.1 (6.2)	△5.2	△52.1	29.2	11.7	17.4	149.3	調整額	△351.9	△418.1	66.2	-	8.7 -	△1.2 -	10.0	-	△1.8	△0.4	△1.4	-	連結計	1,851.9	1,732.2	119.7	6.9	90.9 (4.9)	140.3 (8.1)	△49.3	△35.2																					
その他	64.5	163.6	△99.1	△60.6	4.8 (7.5)	10.1 (6.2)	△5.2	△52.1																																																								
	29.2	11.7	17.4	149.3					調整額	△351.9	△418.1	66.2	-	8.7 -	△1.2 -	10.0	-	△1.8	△0.4	△1.4	-	連結計	1,851.9	1,732.2	119.7	6.9	90.9 (4.9)	140.3 (8.1)	△49.3	△35.2																																		
調整額	△351.9	△418.1	66.2	-	8.7 -	△1.2 -	10.0	-																																																								
	△1.8	△0.4	△1.4	-					連結計	1,851.9	1,732.2	119.7	6.9	90.9 (4.9)	140.3 (8.1)	△49.3	△35.2																																															
連結計	1,851.9	1,732.2	119.7	6.9	90.9 (4.9)	140.3 (8.1)	△49.3	△35.2																																																								

※売上高:上段は総売上高、下段は外部売上高

※連結子会社であるライオンケミカル(株)の事業構成の変化を踏まえ、第1四半期連結会計期間より、従来「産業用品事業」に集約していた同社の事業を「産業用品事業」と「一般用消費財事業」に分離しています。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報についても、この変更を反映したものに組み替えて表示しています。

リビングケア分野、薬品分野が減収となるも全体では増収を確保

(億円)	総売上高			
	2022年 1-6月	2021年 1-6月	増減	
			額	率(%)
オーラルケア	336.5	321.5	15.0	4.7
ビューティケア	125.5	116.5	9.0	7.7
ファブリックケア	289.0	285.9	3.0	1.1
リビングケア	114.0	115.9	△1.9	△1.7
薬品	111.7	114.1	△2.4	△2.1
その他	278.5	256.5	22.0	8.6
合計	1,255.3	1,210.6	44.7	3.7

東南アジアは市場が回復基調のマレーシアが牽引し増収も、原材料価格上昇の影響で減益
北東アジアは中国でEC代理店変更、ロックダウンの影響を受けるも韓国が牽引し増収

(億円)	総売上高				セグメント利益 (事業利益)			
	2022年 1-6月	2021年 1-6月	増減		2022年 1-6月	2021年 1-6月	増減	
			額	率(%)			額	率(%)
東南アジア	391.4	342.5	48.9	14.3	8.3	23.8	△15.5	△65.0
北東アジア	220.4	193.4	26.9	14.0	10.4	10.9	△0.5	△4.6
合計	611.8	535.9	75.9	14.2	18.8	34.8	△16.0	△46.0

※為替変動の影響を除く実質売上高増減率

東南アジア: 7.1% (タイ:4.0%、マレーシア:18.1%)

北東アジア: 4.2% (中国※:△1.7%、韓国:14.2%) ※青島ライオン

合計: 6.0%

■ 2022年度 第2四半期連結業績

■ 2022年度 連結業績予想

■ 「Vision2030 1st STAGE(2022-2024)」進捗について

年初想定通り

(億円)	2022年	2021年	増減	
			額	率(%)
売上高	3,750.0	3,662.3	87.6	2.4
※1 事業利益 (事業利益率(%))	230.0 (6.1)	309.2 (8.4)	△79.2	△25.6
営業利益 (営業利益率(%))	275.0 (7.3)	311.7 (8.5)	△36.7	△11.8
親会社の所有者に 帰属する当期利益	200.0	237.5	△37.5	△15.8
基本的1株当たり 当期利益(円)	68.79	81.73	△12.94	△15.8
※2 EBITDA	400.0	451.7	△51.7	△11.5
※3 EBITDAマージン(%)	10.7	12.3	—	△1.6P
※4 ROIC(%)	5.5	8.8	—	△3.3P
ROE(%)	8.0	9.8	—	△1.8P

※1 事業利益:売上総利益から販売費及び一般管理費を控除したもので、恒常的な事業の業績を測る当社の利益指標です。

※2 EBITDA:事業利益に減価償却費(使用権資産の減価償却費を除く)を合算したものの(22年から変更)。キャッシュベースの収益力を示す指標です。21年439.2億円(調整後)

※3 EBITDAマージン:連結売上高に対するEBITDAの割合です。

※4 ROIC:NOPAT(税引後事業利益)を期中平均の投下資本(資本合計+有利子負債)で除したもので、投下した資本に対する効率性と収益性を測る指標です。

下期に更なる原価上昇の影響を織り込むも、上期実施分と合わせて年間での吸収を目指す

【年間想定】
(下期想定)

原材料価格上昇の影響
△70億円 (下期△65億円)

当社における対応と効果

値上げ、特売価格・頻度の見直し等
販売促進費のコントロール

+52億円
(下期+33億円)

追加コストダウン、
経費の効率化等

+35億円
(下期+21億円)

セグメント構成変化等

△17億円
(下期△4億円)

対年間公表差異

±0億円 (下期△15億円)

1st STAGE(2022~24年)達成に向けて、当社として4つの施策を継続的に推進

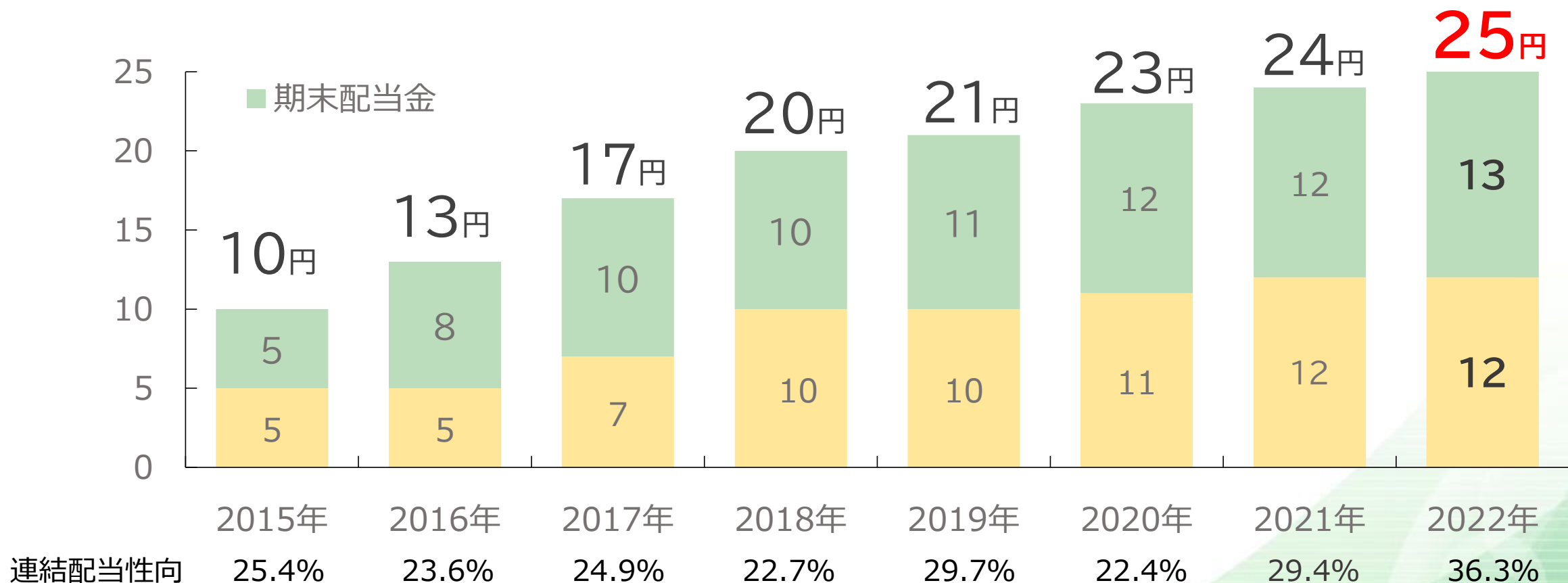
1. 高付加価値新商品の導入加速

2. 事業ポートフォリオ組み換えによる収益構造の見直し

3. 値上げ(原材料高騰分の価格転嫁)、特売価格・頻度の見直し等

4. 追加コストダウン、経費の効率化

配当は**1円**増配、年間**25円**を目指す(**7期連続**で増配)



【配当の基本方針】 継続的かつ安定的な利益還元を行う(目安として連結配当性向30%)

- 2022年度 第2四半期連結業績
- 2022年度 連結業績予想
- 「Vision2030 1st STAGE(2022-2024)」進捗について

Vision2030の経営テーマ:市場・経済・社会におけるプレゼンスの向上

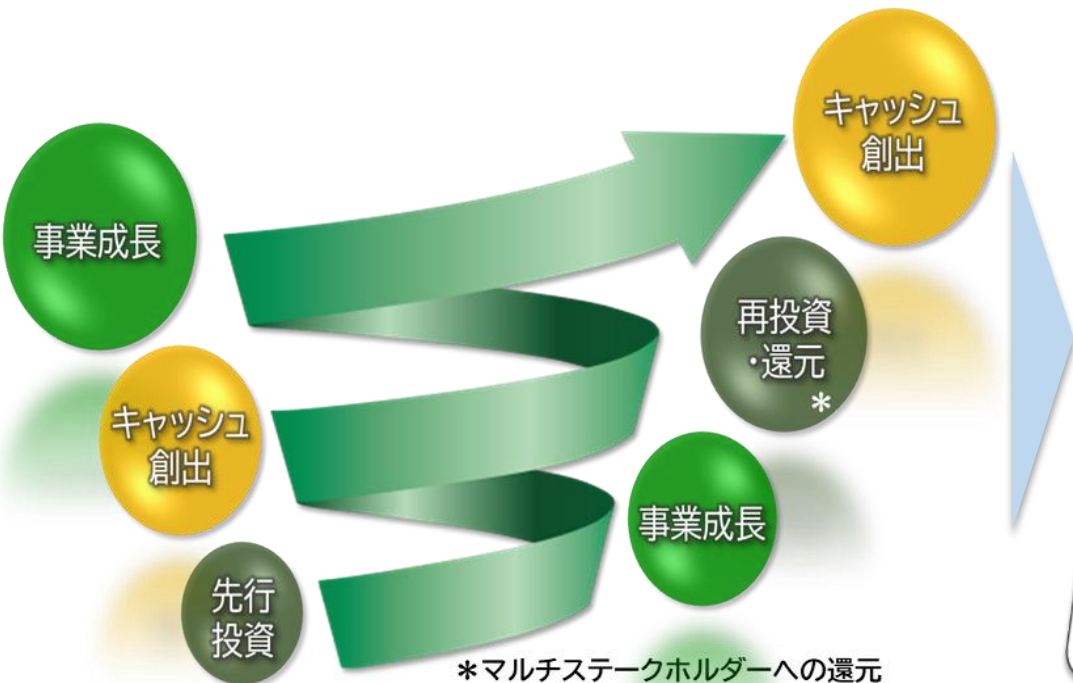
パーパス(より良い習慣づくりで人々の毎日に貢献する)の実践による事業成長*1

*1 事業成長 = 「より多くの生活者接点」 × 「より多くの生活者」 × 「より多くのエリア」の拡大

企業価値拡大スパイラル*2の実現

*2 先行投資 ⇒ 事業成長 ⇒ キャッシュ創出 ⇒ 再投資/マルチステークホルダーへの還元 ⇒ 更なる成長...

企業価値拡大のスパイラル



2030年のターゲットイメージ

ReDesign

より良い習慣づくりで、人々の毎日に貢献する

社会価値

サステナブルな社会への貢献

▶生活者一人ひとりのQOL向上への貢献

▶脱炭素社会、資源循環型社会への貢献

生活者と共につくる『エコの習慣化』

■脱炭素社会：節水・節電の習慣づくり

■資源循環型社会：詰め替え習慣づくり × 捨てない習慣づくり (リサイクル)

経済価値

売上高 **6,000億円** 水準

(海外構成比50%水準)

EBITDA* **800億円** 水準

事業利益 **500億円** 水準

ROIC **8~12%**

ROE **10~14%**

*EBITDA:事業利益+減価償却費(使用権資産の減価償却費を除く)

2030年に向けた成長のポイント

1. 新規ビジネス(+300億円~)

新たなビジネスモデルによる収益機会獲得

2. 新規国・エリア拡大(+600億円~)

アジアでの新規参入に注力

3. 海外既存事業(CAGR10%水準)※青島以外:5~6%水準

青島ライオン事業(1,000億円)を中心とした成長実現

4. 国内既存事業(CAGR2%~)

付加価値化や新たな市場創出による既存事業の進化

2030年に向けた成長のポイント

1. 新規ビジネス(+300億円~)

新たなビジネスモデルによる収益機会獲得

2. 新規国・エリア拡大(+600億円~)

アジアでの新規参入に注力

3. 海外既存事業(CAGR10%水準)※青島以外:5~6%水準

青島ライオン事業(1,000億円)を中心とした成長実現

4. 国内既存事業(CAGR2%~)

付加価値化や新たな市場創出による既存事業の進化

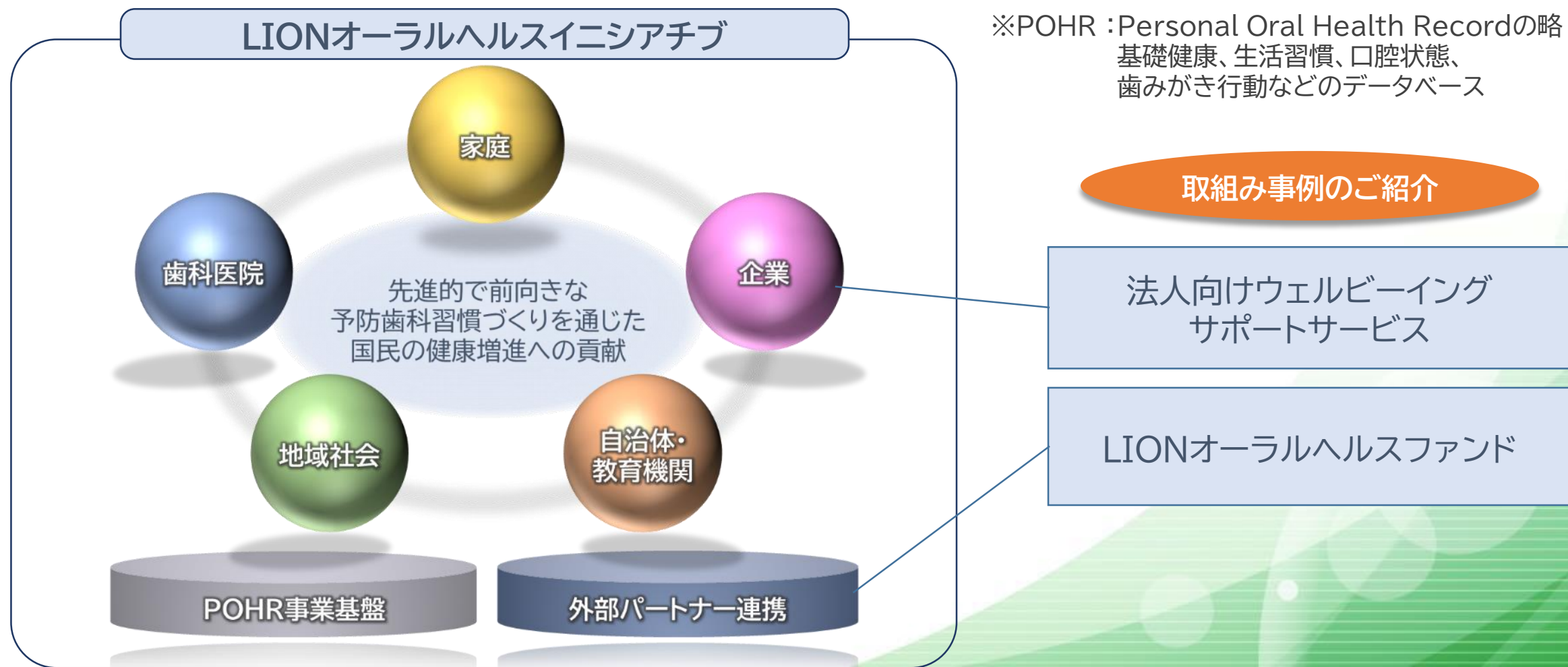
「LIONオーラルヘルスイニシアチブ」



「LIONオーラルヘルスイニシアチブ」として展開する企業活動により、前向きな予防歯科習慣づくりに貢献

LION
オーラルヘルス
イニシアチブ

- ▶オーラルヘルス領域の基本的考え方に基づく企業活動の諸施策を総称
- ▶口腔健康に関わる全ての接点を繋いで予防歯科を習慣化する、との基本的な考え方に基づいて展開
- ▶POHR※事業基盤の構築と、外部パートナーとの連携により、先進的な取組みとして実現



※POHR : Personal Oral Health Recordの略
基礎健康、生活習慣、口腔状態、
歯みがき行動などのデータベース

取組み事例のご紹介

法人向けウェルビーイング
サポートサービス

LIONオーラルヘルスファンド

法人向けウェルビーイングサービス「おくちプラスユー」を開始 (22年7月29日~)

口腔保健の重要性の高まり

医療費抑制のための歯科健診促進等が盛り込まれた

出典:内閣府「骨太の方針(2022)」

持続可能な社会保障制度の構築を目的に、歯科保健医療提供体制の構築と強化に取り組むことが示された。

- ▶全身の健康と口腔の健康に関する科学的根拠の集積と国民への適切な情報提供
- ▶生涯を通じた歯科健診(国民皆歯科健診)の具体的検討
- ▶歯科専門職による口腔健康管理の充実
- ▶歯科領域におけるICTの活用推進

法人向けウェルビーイングサービスを開始



サービス概要

1. オーラルケアセミナー

オーラルケアに関する情報を専門家がリアルタイムで講演するセミナー

時間 30分~1時間 応相談

形式 会場・オンライン・ハイブリット

費用 登壇者等による

講師 ライオン社員・オーラルケアマイスター・歯科衛生士



2. 唾液検査

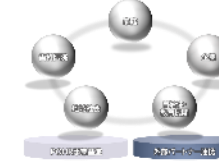
お口の状態を5分で検査
分かりやすく見える化する唾液検査



3. オーラルケアサポートコンテンツ

時間や場所を選ばず、短時間で受講できるオーラルケアE-learning等のコンテンツを顧客企業限定でWEBサイト上で閲覧可能。





国内外のベンチャー・研究機関に向けた投資によって、事業機会の創出を加速

本出資枠の概要

名称	LIONオーラルヘルスファンド	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 前向きな予防歯科習慣づくりを後押しすることで人々の健康増進へ貢献することを目指し、国内外のベンチャー企業・先進的な研究機関を対象に、オーラルヘルス領域に特化した総額30億円の出資枠を設定する。 ▶ 投資判断は、投資担当ディレクターが窓口となり、当社ボードメンバーで構成された投資検討会にて意思決定を行う。 	
出資総額	▶ 30億円	
投資対象	<ul style="list-style-type: none"> ▶ オーラルヘルス領域に強みを持つ国内外のベンチャー企業や関連研究、デジタル技術の拡大に寄与し得る法人・団体とする。 	
重視する事項	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 当社のパーパス、中長期経営戦略フレーム「Vision2030」への共感 ▶ 当社がオーラルヘルス領域で目指す姿の実現に寄与する革新的な技術・ビジネス ▶ 既存事業とのシナジー発揮 	

2030年に向けた成長のポイント

1. 新規ビジネス(+300億円~)

新たなビジネスモデルによる収益機会獲得

2. 新規国・エリア拡大(+600億円~)

アジアでの新規参入に注力

3. 海外既存事業(CAGR10%水準)※青島以外:5~6%水準

青島ライオン事業(1,000億円)を中心とした成長実現

4. 国内既存事業(CAGR2%~)

付加価値化や新たな市場創出による既存事業の進化

アジアでのプレゼンス拡大を目的に、バングラデシュに合弁会社を設立(22年9月下旬予定)

新規国・エリアの拡大:バングラデシュへの展開



- **アジア**への参入に注力 : 24年までに**2カ国(エリア)**以上の参入を目指す
- **M&A推進体制の強化** : 社長直轄専任組織化、キャリア専門人材登用により強化

LION

ライオングループの
製品開発力・生産技術力



 কল্লোল গ্রুপ জট কোম্পানীজ
Kallol Group of Companies

バングラデシュ全土を
カバーする流通網と販売力

LION KALLOL LIMITED

シナジー創出により、バングラデシュ市場における事業拡大を図る

高い経済成長への期待

国名	2020年 人口(百万人)	一人あたり GDP(US\$)	GDP 成長率(%)
バングラデシュ	165	1,962	7.2

出典:IMF 2020年 出典:IMF 2020年 出典:アジア開発銀行 2022年6月

- ▶ 平均年齢:**24歳**(日本は48.6歳)
 - ▶ 人口ボーナス※1は**2051年**まで継続
 - ▶ 一人あたりGDPは2030年**\$4,000**に成長
- ※1労働力人口比率の上昇

■当社展開地域



■一人当たりGDP額の将来予測(バングラデシュ)



出典:UN Report: 世界人口の展望 2019、IMF Report: IMF Country Report No.20/187

**高い成長基盤の中で、習慣作りによる
QOL向上とマーケット拡大を実現する**

2030年に向けた成長のポイント

1. 新規ビジネス(+300億円~)

新たなビジネスモデルによる収益機会獲得

2. 新規国・エリア拡大(+600億円~)

アジアでの新規参入に注力

3. 海外既存事業(CAGR10%水準)※青島以外:5~6%水準

青島ライオン事業(1,000億円)を中心とした成長実現

4. 国内既存事業(CAGR2%~)

付加価値化や新たな市場創出による既存事業の進化

LION経営戦略・新製品発表会 開催

22年11月28日(月) 13時～
@ 品川インターシティ

<テーマ>

- ・これからの事業戦略ストーリー
- ・「23年からの大型アクションの紹介」
(国内最大市場＝ファブリックケア分野)

参考資料

(億円)	2022年 1-3月	2022年 4-6月	前年同期増減	
			額	率(%)
売上高	870.3	981.6	73.9	8.2
※1 事業利益 (事業利益率(%))	55.2 (6.3)	35.7 (3.6)	△23.6	△39.8
営業利益 (営業利益率(%))	104.8 (12.1)	37.7 (3.8)	△21.2	△36.0
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	78.9	31.6	△16.9	△34.9
基本的1株当たり 四半期利益(円)	27.56	11.19	△5.5	△33.0
※2 EBITDA	92.4	75.8	△15.4	△16.9

※1 事業利益は、売上総利益から販売費及び一般管理費を控除したもので、恒常的な事業の業績を測る当社の利益指標です。

※2 EBITDA:事業利益に減価償却費(使用権資産の減価償却費を除く)を合算したもの(22年から変更)。キャッシュベースの収益力を示す指標です。

2022年4-6月 セグメント業績

(億円)	売上高				セグメント利益 (事業利益)																																																											
	2022年 1-3月	2022年 4-6月	前年同期増減		2022年 1-3月 (率(%))	2022年 4-6月 (率(%))	前年同期増減																																																									
			額	率(%)			額	率(%)																																																								
一般用消費財	596.9	658.3	22.5	3.6	36.0 (6.0)	6.9 (1.1)	△18.5	△72.8																																																								
	509.1	575.9	7.6	1.3					産業用品	130.5	141.4	19.3	15.8	7.9 (6.1)	7.5 (5.3)	2.0	38.2	86.2	96.5	12.7	15.1	海外	287.6	324.2	47.2	17.0	8.6 (3.0)	10.1 (3.1)	△7.6	△43.1	261.8	294.8	45.4	18.2	その他	25.3	39.1	△47.6	△54.9	0.7 (3.1)	4.0 (10.4)	△1.7	△29.8	12.1	17.1	9.9	139.7	調整額	△170.1	△181.7	32.5	-	1.7 -	7.0 -	2.2	-	0.9	△2.8	△1.7	-	連結計	870.3	981.6	73.9
産業用品	130.5	141.4	19.3	15.8	7.9 (6.1)	7.5 (5.3)	2.0	38.2																																																								
	86.2	96.5	12.7	15.1					海外	287.6	324.2	47.2	17.0	8.6 (3.0)	10.1 (3.1)	△7.6	△43.1	261.8	294.8	45.4	18.2	その他	25.3	39.1	△47.6	△54.9	0.7 (3.1)	4.0 (10.4)	△1.7	△29.8	12.1	17.1	9.9	139.7	調整額	△170.1	△181.7	32.5	-	1.7 -	7.0 -	2.2	-	0.9	△2.8	△1.7	-	連結計	870.3	981.6	73.9	8.2	55.2 (6.3)	35.7 (3.6)	△23.6	△39.8								
海外	287.6	324.2	47.2	17.0	8.6 (3.0)	10.1 (3.1)	△7.6	△43.1																																																								
	261.8	294.8	45.4	18.2					その他	25.3	39.1	△47.6	△54.9	0.7 (3.1)	4.0 (10.4)	△1.7	△29.8	12.1	17.1	9.9	139.7	調整額	△170.1	△181.7	32.5	-	1.7 -	7.0 -	2.2	-	0.9	△2.8	△1.7	-	連結計	870.3	981.6	73.9	8.2	55.2 (6.3)	35.7 (3.6)	△23.6	△39.8																					
その他	25.3	39.1	△47.6	△54.9	0.7 (3.1)	4.0 (10.4)	△1.7	△29.8																																																								
	12.1	17.1	9.9	139.7					調整額	△170.1	△181.7	32.5	-	1.7 -	7.0 -	2.2	-	0.9	△2.8	△1.7	-	連結計	870.3	981.6	73.9	8.2	55.2 (6.3)	35.7 (3.6)	△23.6	△39.8																																		
調整額	△170.1	△181.7	32.5	-	1.7 -	7.0 -	2.2	-																																																								
	0.9	△2.8	△1.7	-					連結計	870.3	981.6	73.9	8.2	55.2 (6.3)	35.7 (3.6)	△23.6	△39.8																																															
連結計	870.3	981.6	73.9	8.2	55.2 (6.3)	35.7 (3.6)	△23.6	△39.8																																																								

※売上高: 上段は総売上高、下段は外部売上高

※連結子会社であるライオンケミカル(株)の事業構成の変化を踏まえ、第1四半期連結会計期間より、従来「産業用品事業」に集約していた同社の事業を「産業用品事業」と「一般用消費財事業」に分離しています。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報についても、この変更を反映したものに組み替えて表示しています。

(億円)	総売上高			
	2022年 1-3月	2022年 4-6月	前年同期増減	
			額	率(%)
オーラルケア	155.5	181.0	12.1	7.2
ビューティケア	59.4	66.1	1.9	3.1
ファブリックケア	137.7	151.2	2.4	1.6
リビングケア	51.5	62.4	1.6	2.7
薬品	53.0	58.6	△4.2	△6.8
その他	139.6	138.9	8.5	6.6
合計	596.9	658.3	22.5	3.6

(単位:億円)	2022年 1-6月	2021年 1-6月	増減	
			金額	率(%)
売上高	1,851.9	1,732.2	119.7	6.9
売上原価	1,024.1	868.3	155.8	18.0
売上総利益	827.7	863.9	△36.1	△4.2
販売費及び一般管理費	736.8	723.6	13.1	1.8
事業利益	90.9	140.3	△49.3	△35.2
その他の収益	58.9	6.4	52.4	809.6
その他の費用	7.2	4.9	2.2	46.3
営業利益	142.6	141.8	0.8	0.6
金融収益	4.6	4.8	△0.1	△2.7
金融費用	0.6	0.6	△0.0	△8.2
持分法による投資利益	10.7	13.3	△2.5	△19.1
税引前四半期期利益	157.4	159.2	△1.7	△1.1
法人所得税費用	43.4	41.3	2.1	5.3
四半期利益	114.0	117.9	△3.9	△3.4
非支配持分に帰属する四半期利益	3.4	9.8	△6.3	△64.8
親会社の所有者に帰属する四半期利益	110.5	108.1	2.3	2.2

(単位:億円)	2022年 1-6月		2021年 1-6月		増減	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	率(%)
販売費及び一般管理費	736.8	39.8	723.6	41.8	13.1	1.8
販売手数料	47.3	2.6	45.6	2.6	1.7	3.9
販売促進費	154.6	8.4	134.9	7.8	19.6	14.6
広告宣伝費	112.0	6.1	129.6	7.5	△17.5	△13.6
運賃・保管料	100.7	5.4	96.6	5.6	4.0	4.2
研究開発費	53.3	2.9	54.1	3.1	△0.7	△1.4
その他	268.6	14.5	262.6	15.2	6.0	2.3

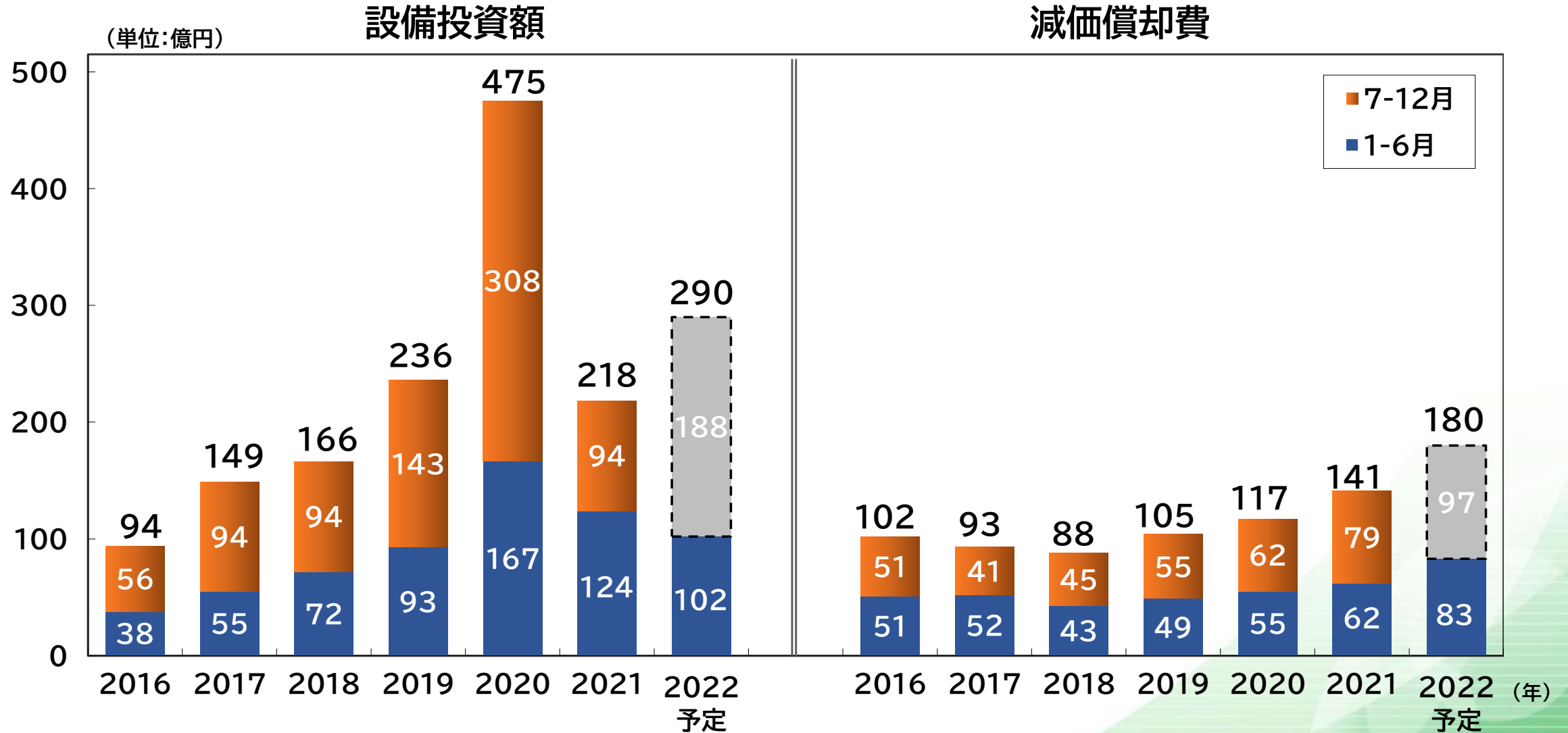
(単位:億円)		2022年 6月末	2021年 12月末	増減額
流動資産		2,148.8	2,321.5	△172.6
	現金及び現金同等物	793.4	972.5	△179.0
	営業債権及びその他の債権	668.4	701.1	△32.6
	棚卸資産	567.9	517.1	50.7
非流動資産		1,980.1	1,958.7	21.4
	有形固定資産	1,240.6	1,206.7	33.9
	無形資産	249.8	239.7	10.0
	使用権資産	51.8	54.1	△2.2
	その他の金融資産	224.7	218.1	6.5
資産合計		4,129.0	4,280.2	△151.2

(単位:億円)		2022年 6月末	2021年 12月末	増減額
流動負債		1,206.6	1,392.1	△185.5
	営業債務及びその他の債務	1,079.3	1,231.4	△152.1
	リース負債	13.9	14.8	△0.8
	その他の流動負債	45.1	81.7	△36.6
非流動負債		245.1	237.9	7.2
	退職給付に係る負債	136.5	126.8	9.7
	リース負債	47.4	50.8	△3.3
資本		2,677.1	2,650.1	27.0
	資本金	344.3	344.3	-
	資本剰余金	309.3	351.8	△42.5
	自己株式	△80.5	△47.3	△33.2
	その他の資本の構成要素	147.8	93.1	54.7
	利益剰余金	1,812.9	1,773.7	39.2
負債及び資本合計		4,129.0	4,280.2	△151.2

(単位:億円)	2022年 1-6月	2021年 1-6月	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	46.0	△62.8	108.9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△86.6	△204.3	117.6
財務活動によるキャッシュ・フロー	△154.4	△51.6	△102.7
現金及び現金同等物に係る換算差額	16.0	4.8	11.1
現金及び現金同等物の増減額	△179.0	△313.9	134.9
現金及び現金同等物の期首残高	972.5	1,215.3	△242.8
現金及び現金同等物の期末残高	793.4	901.3	△107.9

(単位:億円)	年初想定	今回修正	増減
売上増減・構成変化等の影響	+21	+30	+9
トータルコストダウン(原価、物流費等)	+20	+30	+10
原材料価格の影響	△60	△130	△70
競争費用の増減	△30	△4	+26
その他費用の増減	△30	△5	+25
合計	△79	△79	±0

年初想定を上回る原材料価格高騰の影響を受けるも、トータルコストダウンの推進、値上げ対応、競争費・その他経費の抑制等により吸収し、年初計画の達成を目指す



※設備投資額、減価償却費ともに無形固定資産分も含む。

1)家庭品SRI, SRI+ 当社参入主要37市場※計 前年同期比(%)

	2017年 年計	2018年 年計	2019年 年計	2020年 年計	2021年 年計	2022年 1-6月
販売金額	99	102	102	112	95	100
販売個数	98	100	100	105	92	97
平均単価	102	102	102	106	103	104

※(株)イメージ SRIデータ(2016年は当社参入主要38市場、2017年は当社参入主要37市場、2018年~20年当社参入主要38市場)
SRI+データ(2021年は当社参入主要38市場、2022年は当社参入主要37市場)

2)家庭品SCI 当社参入主要14市場計 前年同期比(%)

	2017年 年計	2018年 年計	2019年 年計	2020年 年計	2021年 年計	2022年 1-6月
販売金額	103	102	105	108	102	102
販売個数	101	100	102	101	96	97
平均単価	102	103	104	106	107	106

※(株)イメージ SCIデータ(2016年~2019年は当社参入主要15市場、2020年~当社参入主要14市場)

3) OTC医薬品SDI、SRI+ 当社参入主要7市場※計 前年同期比(%)

	2017年 年計	2018年 年計	2019年 年計	2020年 年計	2021年 年計	2022年 1-6月
販売金額	103	102	100	93	103	102
販売個数	101	101	99	89	101	101
平均単価	102	101	101	105	102	101

※(株)インテージ SDIデータ(2016~2018年 主要8市場計、2019~2020年 主要7市場計)、SRI+データ(2021年~ 主要7市場計)

※2019年1月よりパネルデータが変更。2016年まで遡ってデータを取得

4) OTC医薬品SCI 当社参入主要2市場計 前年同期比(%)

	2017年 年計	2018年 年計	2019年 年計	2020年 年計	2021年 年計	2022年 1-6月
販売金額	103	104	104	102	110	102
販売個数	100	102	102	99	107	100
平均単価	103	102	102	103	103	102

※ (株)インテージ SCIデータ

原材料価格の前提

	ドバイ原油	国産ナフサ	粗パーム油
2022年 下期想定	105.0\$/BBL	82,000円/KL	5,200RM/ton

為替の前提

	米ドル	タイバーツ
2022年 下期想定	130.0円	3.60円

◇ご参考

	ドバイ原油	国産ナフサ	粗パーム油
2022年 年初想定	75.0\$/BBL	58,000円/KL	5,000RM/ton

	米ドル	タイバーツ
2022年 年初想定	110.0円	3.40円

今日を愛する。
LION